

電子黒板・デジタル教科書整備事業

アナ： 「市長が語る 2015 三島」第4回の今日は、「電子黒板・デジタル教科書整備事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 「電子黒板」、「デジタル教科書」という言葉は、聞きなれない言葉ですが、何か新しいものというイメージが湧きます。具体的にはどういったものでしょうか。

市長： 電子黒板は、60から70インチ程度の大型モニターやプロジェクターをとおして、電子化された様々な教材用映像を大きく表示します。

さらに、その画面上への書き込みができたり、直接画面に触れてスマートフォンのように直感的に操作ができるなど多くの機能を備えているものです。

アナ： 電子黒板とは大きなテレビみたいなもので、それを使って先生が色々な教材を見せたりするというイメージですね。

市長： そうですね。その教材の一つとなるのが、電子黒板と合わせて整備いたします先生が使うための指導者用デジタル教科書です。

これは、紙の教科書の内容を電子黒板に大きく表示できるだけでなく、音声や動画の再生、また写真や図の拡大などの機能もあり、子ども達の視覚や聴覚に直接働きかけることができるものです。

アナ： ということは、子どもたちの手元にある紙の教科書と同じものが、電子黒板に大きく映し出されるだけではなくて、関連する動画や音声も見たり聞いたりできるものなのですね。

市長： そうです。

子どもたちが見る美しい写真や迫力のある動画は、視覚や聴覚へ効果的に訴えられますので、学習に対する興味や関心を高められると期待しています。

アナ： ほかにも色々活用できそうですね。

市長： 例えば、理科の実験の前や初めて使う絵具やパレットの使い方を教える際に先生が実演することがあります。この実演をデジタルカメラなどをとおして電子黒板で見せれば共通した理解が深まり授業がより効率的になります。

また、子どもたちの作品やグループ学習の発表などに活用すれば、クラスの一体感が図られて活発なコミュニケーションが生まれる効果も期待できます。

アナ： 「電子」とか「デジタル」という言葉から少し難しそうなイメージでしたけど、何か楽しそうですね。

市長： ビデオカメラで撮影した跳び箱や鉄棒などのフォームを確認する際にも利用できるなど多岐にわたる活用が考えられ、操作も非常に簡単なので親しみやすいものと思っています。

アナ： このような、魅力的な機器が今年度、整備されるのですね。

市長： **今年度は市内の全小学校へ特別支援学級を含めた全クラスを対象に整備します。**

アナ： 全ての小学校の全クラスにですか。

市長： **そうです。市内の小学校の全ての教室に常設します。**

また、一斉に整備しますので、市内のどこの学校に行っても同じ環境で授業が受けられることから、先生方が学校を移っても操作に戸惑いを感じないで活用できます。

アナ： このように一斉に整備する自治体は多いのですか。

市長： **1学年に1台を整備するとか、モデル的に特定の学校に整備する事例などはよく聞きますが、このように一斉に整備する事例は珍しく、県内では初めての取り組みになります。**

アナ： 県内でも先駆けた初めての取り組みということですが、この事業を計画した背景とはどういったものだったのでしょうか。

市長： **学習効果が非常に高いと評価されています電子黒板を一斉に整備することで、教育の公平性が保たれますし、また、いつでも気軽に誰でもが使える環境を整えることで、三島の将来を担う大切な子どもたちの学力向上に結びつくと考え計画しました。**

アナ： いつごろから学校で使えるようになるのでしょうか？

市長： **夏休みを利用して整備しますので、夏休み明けには各教室で電子黒板が使える環境になります。**

アナ： 子どもたちの反応が楽しみです。

市長： **子どもたちが楽しみながら学習できる環境が高まることを期待しているところです。**

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： **ありがとうございました。**